

ポスター発表 2

「保育の記録とその活用」

寺田千栄（搜真幼稚園）

佐野聖子（搜真幼稚園）

研究要旨

私たちが毎日行っている保育を振り返るには、記録が大切である。保育を行う前に書く、月案、週案などと、保育後に書く保育日誌、個人記録などがあるが、記録の形式、種類などは園によって様々である。当園では特に自主的な活動の時間においての子どもたちの遊びをどう記録し、まとめ、振り返りの材料としていくか、園内で話し合い、長年試行錯誤してきた。

今回は保育後に書いている記録をどのように振り返りに生かしているか紹介した。

保育後の記録の種類

遊びの日誌

サイズは B5 で、それぞれの場所ごとにバインダーに挟んである。保育者は自分の担当（ローテーションで決まっている）の場所の日誌をもっていき、その場で子どもの様子を書き留める（メモのような感じ）上段は簡単な配置図になっているので、そこに子どもの名前や遊びを簡単に書き、特記事項があるときだけ下段に記述する。補足があれば、保育後に書き、次の日の保育者にバインダーを渡しながら申し送りをする。

遊びの日誌は一年間分まとめて表にし、一年間どの場所でどんな遊びがどのくらい続いたか見ることができる



保育日誌

保育日誌の構成は、クラス活動、絵本の記録、お話の記録、あつまりの記録からなっている。すべてのクラスが一覧で見られるので、お互いの連携に役に立っている。

個人記録

それぞれのクラスにおいてあって、どの保育者でも自由に書けるようになっている。

振り返りへの生かし方

3つの記録を一年から複数年まとめてみると、遊びの全体像が見えてくる。単年度では、遊び

のスタートと終わりがわかり、その年度に各学年で人気のあったもの、季節的なもの、その年の特徴などがわかる。またそれぞれの場所で発生した遊びが、他の場所に波及している様子も見えてくる。年度をつなげてみると、同じ学年が進級していくきどのように遊びが変わっていったか、何に影響されて変わっていくかもわかりやすい。同じ場所をつなげてみると、環境設定の変化、教材、遊具の変化がわかり、参考になる。

一つの遊びを取り出してみてみると、遊びが深まっていく様子がわかり、子どもたちと保育者がどのようにかかわりで遊びが深まっていったか、その時どのような環境設定がなされてそれはどう影響したのかなど、検証することができる。

一人の子どもを追ってみると、その子どもの成長に遊びがどんな意味を持ったのか、クラス活動との関係があったのか、保育者としてどのように考え、かかわったのかがわかり、振り返りとなる。

研究の考察とこれからの課題

今回長年当園が取り組んできた記録のとりかたとその活かし方について、改めて考えることができた。まず、記録のとりかたについては次の点が大切であると考える。

- ① 時間がかかりすぎないこと
- ② 記録したことがすぐに保育に生かされるような様式
- ③ 何を記録したいか明確であること

園の保育形態によって、次の保育へつなげるためには何を記録し、どう生かしたいかを保育者間で相談し、意思の疎通を図ることが大切である。記録が毎日次の日に引き継がれるので、保育者の記録への意識が高まり、自然と振り返るときを持つことができる。また記録を、個人、遊び別にまとめたりすることによって、園内研修の材料としても使いやすくなっている。

今後は記録の中から、事実をそのまま記録しているもの、エピソードになっているものといろいろな記述方法があることを保育者間で共有し、記録の内容について深めたり、園内研修に園外の人に加わっていただき、記録の内容や活用方法などの学びにつなげていきたい。

